

第6節 課題研究発表会

1. 目的

「GLOBAL I」、「GLOBAL II」の中で取り組んできた課題研究が、グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を備えるための取組であることを発表を通して再確認する。また、その学習成果を1・2年次全員で共有することにより、学類や年次を超えて知的好奇心の高揚を図るとともに、次年度に向けた学習への意識付けの場とする。

2. 日程 平成31年2月6日(水)

- 9:00 開会行事<体育館>
開会あいさつ・趣旨説明
- 9:15 「GLOBAL II」ステージ発表 I (発表10分、質疑8分)
- 10:09 岡山操山高等学校発表
- 10:27 岡山学芸館高等学校発表
- 10:45 移動

- 11:05 「GLOBAL I」A群ポスターセッション(1年次)<HR教室>
岡山操山高等学校・岡山学芸館高等学校ポスターセッション
「GLOBAL I」B群、「GLOBAL II」プレゼンテーション(1、2年次)<HR教室>
- 11:56 終礼・昼食・休憩・移動

- 12:45 「GLOBAL II」ステージ発表 II (発表10分、質疑8分)<体育館>

- 14:15 閉会行事<体育館>
「GLOBAL III」選択者代表 課題研究発表
指導講評・閉会あいさつ

3. 「GLOBAL I」の発表内容

【課題研究A群】 研究分野：家庭科 研究期間：H30.10.17～H30.11.30

- 1組 「ポーっと逃げてんじゃねーよ！」
～岡山県の小中学校で行う効果的な避難訓練～
- 2組 「災害や事故におけるWCF(Women & Children First)は男女差別か」
- 3組 「積極的安楽死は最後にだれが手を下すべきか」
- 4組 「災害大国日本における災害対策の意識改善」
- 5組 「より多くの募金額を得る方法」
- 6組 「Why don't you try Meal Delivery Service?」
- 7組 「子ども食堂は増やすべきか」
- 8組 「幼稚園・保育園に動物飼育は必要か」
- 9組 「小学1年生から英語4技能を学習すべきか」

【課題研究B群】 研究分野：日本史・世界史・地理 研究期間：H30.12.12～H31.2.5

- 1組 「私と世界とインスタントラーメンと」
- 2組 「無限のゴミ箱？」
- 3組 「外国の行事が日本に入ってきたことによる日本への影響」
- 4組 「世界へはばたく桃太郎！」
- 5組 「ドクターヘリ 岡山から始まった救急医療」
- 6組 「日本に文字が生まれなかった理由～世界との比較～」
- 7組 「JAPAN」
- 8組 「他国とよりよい国際関係を築くために～そのカギは親日国との関係にあった」
- 9組 「和牛をMOWっと広めよう！」

4. 「GLOBAL I」の成果と課題

体育館での「GLOBAL II」の2年次生によるステージ発表では、フィールドワーク・実験・聞き取り調査といった手法を取り入れた研究により説得力を与えるものが多くみられた。また、英語での発表もあり、1年次生にとって、来年度の「GLOBAL II」に向けての指針が示されるとともに、2年次生の掘り下げた質問を聞くことなどによって、課題研究でどのような力を養っていけるのかを具体的に感じる事ができた、とても有意義なものであった。質疑応答においても、多くの生徒が挙手し、質問する積極的な姿勢が見られた。

岡山操山高校や岡山学芸館高校代表生徒の発表においては、発表者同士のかけ合いや、聴衆にも考えさせる時間をとるなどの工夫が見られ、日頃聞くことができない他校の発表を聞くことで刺激を受けることができたと思われる。

1年次生は、事前のクラス発表で選出された各クラスの代表班が、HR教室で「GLOBAL I」の発表を行った。A群は、代表選出までの期間が短いため、代表に選ばれた後に放課後等を利用し、再度ポスターの内容を見直して改善し、発表練習を繰り返して本番に臨んだ。一方、B群は日程的に発表会の直前に代表が決まるため、十分な修正をできず本番当日となった。例年B群の課題研究の日程については検討を希望しているが、なかなか難しい現状にある。また、B群の課題研究発表会本番の発表時間は10分であったが、クラス選出発表会では時間の関係で発表時間を5分以内とせざるを得ず、本番までの短い期間で発表内容をさらに充実させて当日に臨むこととなった。生徒たちは限られた時間内で非常に良く努力しているため、もう少しじっくりと考え、精度を上げる時間が欲しいと感じた。いずれの発表においても、活発な質疑応答が見られ、質問を受けることで新しい視点で問題を捉え直す機会ともなり、有意義なものとなっていた。

5. 「GLOBAL II」の発表内容

① 体育館ステージ発表

- ・ Aグループ 「聖地巡礼で地域活性化するために」
- ・ Bグループ 「はいきた！はいきやさい」
- ・ Cグループ 「The negative effects of plastic bags on the environment and possible solutions for a cleaner and more sustainable future」
- ・ Dグループ 「点字ブロックとの関わり方」
- ・ Eグループ 「海ごみの現状」
- ・ Fグループ 「人口減少社会の治安維持におけるコンパクトシティの有効性に関する考察」
- ・ Gグループ 「居場所としてのスクールライブラリースペース～万人を迎え入れ、静かに放っておいてくれる場所～」
- ・ Hグループ 「皇室と若者」

② HR教室発表

- ・ Aグループ 「岡山の愛宕梨の発展による農業従事者の増加と地域活性化」
「果樹栽培の六次産業化 ～岡山市中区沢田地区の柿農家の事例～」
- ・ Bグループ 「レッドグローブを岡山の名産にするために」
- ・ Cグループ 「Stop "Human trafficking"！」
- ・ Dグループ 「異世代ホームシェアについて」
「新しいピクトグラムの提案」
「外国人観光客の安全のために」
- ・ Eグループ 「バイオマス発電の将来性」
- ・ Fグループ 「岡山城東高校がバリアフリースクールになるには？」
「青色防犯灯の有効性についての考察」
「高齢者の社会問題を解決するためには」
- ・ Gグループ 「The Diversity of Food and School Lunch」
「セクシュアルマイノリティのための学校改革」
- ・ Hグループ 「『わびさび』を海外に発信する」
「伝統の継承」
「今のピクトグラムはわかりやすいか」

6. 「GLOBAL II」の成果と課題

大枠のテーマごとにA～Hのグループに分かれ、その中で学類を超えてチームを組み、週2時間の「GLOBAL II」の授業時間や放課後、休業期間中に取り組んできた課題研究の成果を、プレゼンテーションソフトを使いまとめてきた。

この研究をグループごとに発表し、選ばれた代表班が課題研究発表会で発表した。体育館でのステージ発表は各グループ1班の合計8班。HR教室発表は、各グループから合計で16班が選出され、プレゼンテーション形式の発表を行った。

本年度の研究をみると、去年の先輩が行った研究を先行研究として発展的に研究を進めていくものや、先輩たちの研究の方向とは違った角度で捉え直すといった研究がみられ、単年度で終了するものと違い継続的・発展的な研究につながっていると実感できた。

現地でのフィールドワークやインタビュー、アンケートなど自らの行動を伴った研究が数多くみられた。また、数値的な試算に具体的に取り組む班がみられるなど、より具体的な取り組みに向けての積極性がみられた。

体育館でのステージ発表では、大勢の聴衆の前で気後れすることなく発表し、その後の質疑応答も大変活発で、そのやりとりについても事前準備をしていたのかのように言葉のキャッチボールが行われていた。時間の都合で質問を打ち切らざるを得ないことが残念であった。HR教室発表においても、会場が狭いことがより発言者と聴衆の意見交換を活発にさせていた。年間の活動を通じて、より良いものにしようと生徒たちが努力をするあまり、時間が掛かってしまい、結果的に十分な結論にまで到達できないものも見られた点は残念であった。

第7節 海外修学研修

1. 平成29年度の実施と生徒の報告

この研修は、「GLOBAL II」での課題研究の成果をもとに、海外の大学や高校、国際機関などで意見交換を行うことにより、プレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に付けることをねらいとしている。本格実施して3年目となる今年度は、30期生（2年次生）の希望者9名（男子1名、女子8名）を、イギリスに派遣した。引率教員は2名であった。事前研修を7回実施し、研修の目的や心得、訪問地に関するガイダンスや、課題研究の成果を英語で発表する準備、そしてフィールドワークの計画を行った。



出発式の様子（岡山空港にて）

（1）研修の概要

本年度は、校舎建て替えのため、学校交流が可能な高校が、昨年度、訪問した Cranford Community College の1校のみとなった。しかし、昨年度同様、交流校コーディネーターの Phillip Dobison 氏が、入念な準備のもと迎えてくださったことと、事前準備の時間を十分に設けることができたことで、充実した交流になったと思われる。

昨年度と同様、Ardmore Language School を拠点に、同センターの大学寮に宿泊し、食事もキャンパス内のカフェテリアでいただいた。研修中は語学学校のスタッフが、プレゼンの準備やリハーサルの支援、フィールドワーク計画の助言や当日の安全管理、毎晩の英語を使った活動の運営など、熱心かつ丁寧に行ってくれた。また、訪問校が減ったことで生じた時間に、隣接する Ardmore Berkshire College で、2日間の Immersion Day として、観光学の授業への参加を受け入れてくださったり、同校の生徒とスポーツ交流を行う時間を設けてくださったりした。また、プレゼン指導等でお世話になった Kay 先生、急きよ、英語の授業を開講してくださった Ann 先生は、元々、城東高校のプログラムに関わる予定はなく、我々の活動をサポートするスタッフの呼びかけに応じて、ボランティアで指導をしてくださった。このような多くの方の尽力で、昨年度と変わらない充実した研修内容となった。



Ardmore Language School 寮での食事の様子

研修日程

第1日目	3/3(土)	移動：岡山～羽田～ロンドン（ヒースロー空港）	大学寮泊
第2日目	3/4(日)	ケンブリッジ大学訪問 キャンパス見学、現地学生との交流、日本人研究員の講義	大学寮泊
第3日目	3/5(月)	プレゼンテーション準備、リハーサル、防災訓練 ロンドン・フィールドワーク準備	大学寮泊
第4日目	3/6(火)	ロンドン・フィールドワーク Commonwealth of Nations 訪問	大学寮泊
第5日目	3/7(水)	Cranford Community College 訪問 プレゼンテーション、意見交換、校内案内、交流会	大学寮泊
第6日目	3/8(木)	帰朝報告に向けた現地英語教師によるプレゼン指導 Immersion Day（スポーツ交流）	大学寮泊
第7日目	3/9(金)	Immersion Day（観光学の授業参加）振り返り活動、プレゼン、アン先生による英語の授業、Gutch 夫妻と交流	大学寮泊
第8日目	3/10(土)	Ardmore Language School 修了式 ナショナル・トラスト・サイト見学 移動：ロンドン（ヒースロー空港）～羽田	機内泊
第9日目	3/11(日)	移動：羽田～岡山	

(2) ケンブリッジ大学訪問

午前中は、現役の学生2人の案内で、同大学を構成する college の見学や街の散策を行った。この街で研究を行ったアイザック・ニュートン、ホーキング博士など生徒たちもよく知る人物の名前をガイド中に聞くことで、世界有数の大学の歴史を肌で感じることができた。その後、学生達から、大学生活や卒業後の進路についてお話しいただいた。本校生徒も、積極的に質問をしていた。

午後は、同大学嘉悦センターにて、昨年度同様、ロバーツ平浩子さんに「留学の勧め～2つの視点を持つ～」と題して、講義を行っていただいた。「どうして、大学で勉強したいのか」、「誰のために勉強しているのか」という生徒自身にかかわりの深い問いについての、ご自身の経験を踏まえたお話は、生徒たちの今後の学びを深め、グローバルな時代に更なる一歩を踏み出すためのモチベーションを高める示唆に富んだ講義であった。



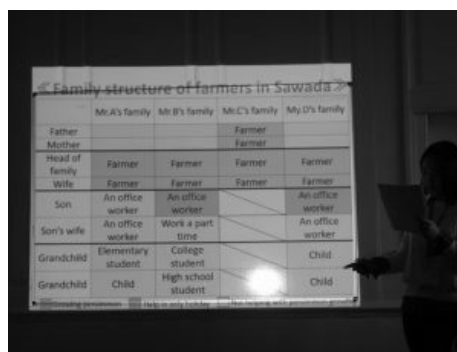
ケンブリッジ大学の学生との交流



ロバーツ平浩子さんによる講義

(3) プレゼンテーション準備

学校交流でのプレゼンテーションに向けて、Ardmore Language School の一室を借りて、事前準備を行った。英語教師の Kay 先生が、一人ひとりの原稿とスライドを入念にチェックし、文法、語法の訂正だけでなく、ネイティブの視点から、自然な言い回しやプレゼンテーションのコツ、心構えも教えてくださった。一人ひとりリハーサルも行い、生徒同士での質疑応答、現地スタッフによる質疑、講評をいただいた。活発な質疑、議論を通して、本番に向けて、プレゼンテーションをより良いものにすることができた。



プレゼンテーションのリハーサル

(4) ロンドン・フィールドワーク

2班に分かれ、ロンドン市街地で自主研修を行った。スタッフと教員は生徒を見守り、基本的に生徒主導で地図や案内板を頼りに、時に通行人に道を尋ねながら計画を遂行した。ロンドンの街並みそのものにも見所が多く、全行程を徒歩で移動するグループもあった。普段、教科書で目にするものの実物を目にし、知識を裏付ける貴重な物に出会う瞬間があった。各グループの訪問地は、次の通りである。

グループA：大英博物館、コヴェントガーデン、グリーンパーク

グループB：大英博物館、フリーメイソンズホール、グリーンパーク



バッキンガム宮殿にて



大英博物館にて

(5) Commonwealth of Nations 訪問

今年度も、Commonwealth of Nations の本部である Marlborough House を訪れた。Programme Manager の S. Ram 氏が、シンプルな英語で、丁寧に話してくださったので、Commonwealth の成り立ち、理念を理解することができた。彼自身も、英語が第1言語ではなく、ミスを恐れないでほしいと言ってくださった。生徒も、それに励まされ、時間の許す限り、質問をした。その質問の中には、この研修に参加していない生徒が GLOBAL II で扱ったテーマに絡めた質問もあり、生徒の視野の広がりを感じることができた。



S. Ram 氏による講義

(6) Cranford Community College 訪問

現地の11歳から18歳が通う学校である。滞在先の最寄り駅まで、タクシーで送ってもらい、電車でCranford Community Collegeを目指した。ロンドンでのフィールドワークでtube(地下鉄)を使用していない生徒にとっては、初めての電車移動となった。現地の高校生と合流した後、4つのグループに分かれ、今まで準備してきたプレゼンを行った。プレ



ゼンテーションの後は、プレゼンテーションをもとに話し合ったり、なぞなぞやイギリスや日本に関するクイズを一緒に考えたりして、交流を深めた。午後は、Phillip 氏と様々なアクティビティを行い、その中で、アメリカ英語とイギリス英語の違いにも触れた。



(7) Immersion Day

Immersion Day として、Ardmore Berkshire College で、観光学の授業への参加とスポーツ交流を行った。観光学の授業では、まず、観光に関する基本的な知識を講義していただいた。基本的な内容を、ゆっくりとした英語で話してくださったので、生徒たちはしっかりと理解できていたように思う。続いて、日本、イギリスの観光地に関するクイズに現地学生とともに挑戦した。その後、日本、岡山、城東高校の紹介を現地学生に行い、イギリスとの違いなどを話し合った。同世代でありながら教育システムが異なるので、3教科しか履修せず、週3日の登校で、アルバイトをしながら就職に向けて職業訓練や課題に取り組むという生活に生徒は驚いた。最後に、城東高校校歌を披露し、授業を終えた。現地の学生とのスポーツ交流では、城東生、現地学生の混合チームを作り、ハンドボール、フリースローをベースにしたゲーム、ベンチボールというゲームを行った。久々に体を動かしたので、良い気分転換の機会となった。



観光学の授業



スポーツ交流



(8) 振り返り活動・Ann 先生による授業

Kay 先生に、研修全体の振り返りを、生徒との対話を通して行っていただいた。聞き手を意識したプレゼンをするなど様々なアドバイス、今後の英語学習や帰朝報告に向けた励ましをいただいた。特に、難しい英語を使っていることがあるので、シンプルな英語を話すようにとネイティブの先生から指摘されたことは、普段、意識することのない点だったように思う。最後に、



Ann 先生による授業

It is better to have tried and failed than never to have tried at all. (何もしないより、挑戦して、失敗したほうが良い) という言葉をいただき、振り返りが終わった。また、Kay 先生の呼びかけで、同校の Ann 先生が急きよ、英語の授業を行ってくださった。授業内容は、失礼なく相手に自分の気持ちを伝えるのに必要な助動詞、仮定法を使って場面に応じた



Kay 先生による振り返り

呼びかけで、同校の Ann 先生が急きよ、英語の授業を行ってくださった。授業内容は、失礼なく相手に自分の気持ちを伝えるのに必要な助動詞、仮定法を使って場面に応じた

表現を学ぶものだった。Kay 先生がアドバイスしてくださった聴衆の存在を意識するという点とも通ずるもので、交流校で発表する機会を持った直後の生徒には、自身のスピーチを振り返る機会にもなった。助動詞や仮定法といった普段学習している文法事項が、コミュニケーションの中で、どのように機能するかを理解する機会にもなった。

(9) 現地在住の日本人夫妻との交流

その後、過去の本研修で生徒が偶然知り合い、交流の始まった Gutch 夫妻の話をお聞きした。Gutch 氏はイギリス人、奥様は岡山出身の日本人で、Gutch 氏は英語で、奥様は日本語で海外生活、国際結婚についてなどを話していただいた。グローバルという言葉が認知されるはるか前からのお二人の経験談に、生徒は様々な質問をしていた。



(10) ナショナルトラスト・サイト見学

ナショナルトラストの管理する Hughenden Manor を見学した。英語でガイドをしていたきながら部屋を巡るハウストゥアーを体験し、素晴らしい建物と手入れの行き届いた庭園にイギリスの歴史と伝統を感じた。生徒から、積極的に質問もしていた。ここは、元英国首相ディズレーリの邸宅で、第2次世界大戦中は屋敷の地下が最高機密の空軍基地として使われていたという歴史もある。



(11) 研修を終えて

帰国後、終了式で、全校生徒に向けて、英語で帰朝報告を行った。Ardmore Language School で頂いた赤いリボンのネームカードを首にかけ、「出会った人々 (The people we met)」「訪問した場所 (The places we visited)」「行った学校—高校・大学 (The colleges we went to)」「まとめ (Conclusion)」という流れを全員で分担し、スライドを使ってプレゼンを行った。プレゼンについては、指導してくださった Kay 先生からの「見たり聞いたりしたことだけでなく、自分が考えたり感じたりしたことを伝えることが大切」「(プレゼンの時) あなたらしく。心を開いて。自信を持って。聞き手と話をするつもりで。(Be you! Be open! Be confident! Talk to your audience!)」などのアドバイスを思い出しながら、準備を行った。

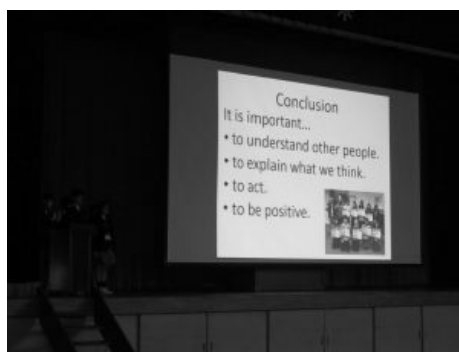
最初に、ロバーツ平氏や、Common Wealth の S. Ram 氏、Gutch 夫妻との出会いを通して、各自が考えたことを伝えた。特に、自分は何に貢献できるか、批判的思考、援助や協力など人との関わりを通して自分でできることの領域を広げていくこと、他者や異文化を尊重すること、若者の教育などについて取り上げた。

次に、ケンブリッジ大学や、ロンドン、Hughenden Manor を訪れて体験したことや感じたこと、また Cranford Community College で9人がそれぞれ「GLOBAL II」の研究をプレゼンして現地生徒と交流したり、Ardmore Berkshire College で、現地生徒と観光学の授業と一緒に参加したり、スポーツ交流を行ったりしたこと、複数の英語の先生方の指導を受けたりして学んだことを発表した。

最後に、研修全体を通じて大切と実感したのは「異なる国や文化の様々な人たちを理解すること」「自分が考えていることを言葉で説明すること」「行動すること」「前向きであること」であるとまとめていた。

「海外と日本の橋渡しをしたい」「開発援助のため青年海外協力隊などで専門を生かして働きたい」「日本語教師を目指したい」など、彼らはこの研修中色々な刺激を受けて、自分の将来についても少しずつ考えを深めていたようだ。今回は英語での報告だったが、一人ひとりが肌で感じたことを、これからの学校生活でも仲間や後輩に自分の言葉で伝え、皆に刺激を与えていくことと思う。

事前研修から帰国まで、多くの人々に支えられた研修であった。生徒は、その期待に応えるよう、「GLOBAL III」、大学におけるより深みのある研究への意欲を高め、将来に向けて大きな学びを得ることのできた9日間であった。



帰朝報告の様子

(12) 参加生徒報告（代表者）

私がこの研修で特に印象に残っているのは、” The Common Wealth” での研修だった。ロンドンフィールドワークの後のプログラムで、私は正直、早く寮に帰りたいと思っていた。しかし、ひと通り話を聞くと、自分の考え方や視点が変化した。

まず、この話の中で一番印象的だったのが、この機関の加盟国の約60パーセントを占める若者の教育についてだ。私たちはよく、「グローバルリーダーになれ」と言われるが、私には、その意味が具体的には分からなかった。話の中では、若者の教育を大切にするには、社会に貢献することになると知り、彼らが年をとってもずっと社会への貢献を続けると言われていた。また、若者は時には良い提案をするのに、政府は問題しか見ておらず、若者を見ていない、と問題点も指摘されていた。グローバルリーダーになるということは社会に貢献できるようになることであり、それを次世代にも伝えていけるようになること

だと私は思う。問題とだけ向き合うのではなくて、問題を取り囲む人やものとの関係を考えることも大切だと気付いた。話の中では、政府などスケールの大きい問題を扱っていたが、身近なところで考えるとすごく簡単なことだと思う。自分の視野とともに知識を広げていかなければならないとわかった。

次に、他の国や文化を認め合うことの重要性を改めて知った。コモンウェルスでは人の権利のために性別やそれぞれの国同士を平等に扱ったり、民主主義のために他の人を尊敬している。私が話の後に質問で「世界が平和になるには、自分たち個人としてはどうするべきか」と尋ねると、「特にこれをしろとは言わないけど、他人を理解しようとし、他の文化を理解しようとするのが大切だ」と答えてくださった。一番良い方法を考え、決定することで、平和な世界はできると思う。このことから、とにかく周りに流されすぎず、自分の考えを持つということが大切だと分かった。私は自分の英語に自信がないし、きちんと相手に伝わっているか不安があったけれど、この時、自分で考え、手を挙げて質問し、この回答を得られて本当に良かった。

コモンウェルスでの経験もそうだが、自分の意見を持つこと、文法や言葉が変だとしても伝えようとする大切さを身を持ってこの9日間で学ぶことができた。イギリスには、英語がセカンドランゲージという人がたくさんいて、独特のなまりがある人もいたけれど、みんな、自分の今できる範囲で伝えようとする姿にすごく刺激を受けた。自分自身の成長のためにも、今何を思ったのかということや、何が疑問なのかということを確認にして、「伝えようとする姿勢」を大切にしていきたいと思う。

研修中、ボランティアで私たちに英語のレクチャーを行ってくれた先生や、身の周りのことをしてくれたスタッフの方々、その他にもたくさんの方がこのプログラムに関わってくれたことへの感謝を、ぜひ周りにシェアしたいと思う。



Ardmore Language School 修了式にて